

解説 民法(家族法) 改正のポイントI

——2018~2022年民法改正編

大村敦志 = 窪田充見 編

担当編集から

債権法改正に続いて、民法の家族法分野において、現在複数の改正がなされています。具体的には、2018年の婚姻法改正、2019年の養子法改正、2022年の親権法・実親子法改正です。編集担当の私がそうなのですが、油断をすると自分が学習し理解している民法とは全く別の規定となることがあり、アップデートした内容を学習する必要が生じます。

今回紹介する本書は、上記一連の改正をひとまとまりの改正として捉えたうえで、それぞれの直接の改正の経緯・背景、その内容、実務への影響までを丁寧に解説しています。第一人者によるコンパクトでわかりやすい解説は、家族法の理解をアップデートするだけでなく、今後の家族法を考えるうえでも必読といえましょう。

なお、さらに続く2024年の家族法改正は本書に含まれておりませんが、IIとして引き続き刊行予定ですので、どうかお待ちください。(I)

Point

社会的な関心も高い一連の法改正をぜひこの機会に!

序章 改正の経緯

第1章 婚姻法の改正(2018年)

第2章 養子法の改正(2019年)

第3章 親権法の改正(2022年)

第4章 実親子法の改正(2022年)

- I 嫡出推定
- II 否認権者の拡大
- III 認知無効の制限
- IV 子が自ら主張する際の出訴期間の特則
- V 生殖補助医療に関する特則

解説

民法(家族法) 改正のポイントI

2018~2022年民法改正編

大村敦志・窪田充見 編

石綿はる美・木村敦子・久保野恵美子・小池泰
杉山悦子・権野弘樹・山下純司

親子法制の 「いま」がわかる

嫡出推定規定の見直し等を含む令和4年親子法改正を中心に、そこに到る一連の重要改正を丁寧に解説。改正の経緯から、改正法が理論・実務に及ぼす影響まで、あますことなくつかむことができる。



有変図

レベル	用途	対象
中級 上級	学習 教養 研究 実務	研究 法曹 一般

2024年10月発売/222頁/定価2420円(税込)
四六判/並製

詳細を
見る



BOOK INFORMATION

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

